

個別事業(取組)評価				
事業No.	33	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	子どもの読書活動推進総合事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	26,309
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	26,309

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 県内の小中学校では、ほとんどの学校で一斉読書が行われ、全国学力学習状況調査においても、全国と比較して読書好きな子どもが多いという調査結果が出ている。しかしながら、これらのことが読解力の向上や自主的な読書につながっておらず、「読書の質」と「学校外での読書時間」に課題がある。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 「全国学力・学習状況調査」「学校図書館の現状における調査」「県民世論調査」等で現状を踏まえた事業であり、正確に把握している。
		【要因】 ◆ 子どもに本を手渡す「司書や読書ボランティア」など専門性を有する人が少ない。 ◆ 子どもの読書環境の地域間格差が大きく、中山間地域には公立図書館・書店のない町村も多い。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 高知県子ども読書活動推進計画の策定過程で、要因を十分分析したものであり、特定できている。
②	目標(Outcome)	① 公立図書館のない13町村において、県立図書館の図書利用冊数を30%増加させる。 ② 市町村の「子ども読書活動推進計画」の策定率は50%を目指す。 ③ 読書楽力検定の受験者数は、前年度比50%増の3,700人以上を目指す。(平成21年度は2,520人) ④ 官民協働で開催する「親子で本を楽しむ日」を5ブロックで開催し参加者500人以上、全県を対象とした「読書フォーラム」を1回開催し参加者500人以上を目指す。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 継続して取り組んでいる事業もあり、達成可能な具体的数値目標を設定している。 エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>) ① 読書環境の厳しい地域のある市町村に子どもの読書活動支援員を配置することで、公立図書館のない13町村において県立図書館の図書利用冊数が平成21年度比で278%増加した。【想定を大きく上回る成果が得られた】 ② 平成22年度は4市町村が新たに策定し、策定した市町村は合計11市町村となった(32.4%)。 ③ 平成22年度版読書楽力検定を実施した結果、受験者数は2,772人で前年度比10%増であった。 ④ 「親子で本を楽しむ日」は約800人、「高知県読書フォーラム」は約1,000人の参加者があった。【想定を大きく上回る成果が得られた】
		【検証(比較)方法】 ① 県立図書館のデータ ② 市町村への調査 ③④参加者(受験者)数	
③	実施内容(Input・Output)	① 公立図書館の無い13町村及び読書環境の厳しい地域のある4市町、計17市町村へ子どもの読書活動支援員を配置する。 ② 「子ども読書活動推進計画」未策定市町村を対象とした策定研修会を実施する。 ③ 県内3箇所計9回の読書ボランティア養成講座を開催する。 ④ 主に中学生を対象に自発的な読書と質の向上のための「読書楽力検定」を実施する。 ⑤ 子ども司書養成講座(22単位34時間)を実施し、子ども司書を40人養成する。 ⑥ 推薦図書リスト「あなたに贈りたい一冊」を官民協働で作成し、県内保幼小中学校及び公立図書館に配付する。 ⑦ 官民協働で「親子で本を楽しむ日」、「読書フォーラム」を実施する。 ⑧ 高知県子ども読書活動推進計画(第二次)を策定する。	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ① 子どもの読書活動支援員を計画通り配置した。 ② 子どもの読書活動支援員を配置した未策定市町村対象には実施した。 ③ 読書ボランティア養成講座を県内4箇所合計9回、全県研修を1回実施し、延べ173人が参加した。 ④ 読書楽力検定は計画通り実施した。 ⑤ 子ども司書養成講座は、土佐清水市、高知市、安芸市の県内3箇所で開催し、小学生9人、中学生26人、高校生1人の36人が受講し、子ども達が所属する学校で図書の整理や読書活動の推進等に取り組んでいる。 ⑥ 平成21年度に作成した「高知県の中学生が贈る133冊」の続編として、推薦図書リスト「第2弾高知県の親が贈る133冊」を25,000部作成し、県内の小中学校及び公立図書館等に配付した。 ⑦ 官民協働による「親子で本を楽しむ日」は、中芸・嶺北・仁淀川流域・四万十川流域・北幡地区の県内5ブロックで「高知県読書フォーラム」は、高知市で計画どおりに開催することができた。 ⑧ 高知県子ども読書活動推進計画(第二次)を策定することができなかった。平成23年度の策定を予定している。

総合評価と今後の方向	目標達成度 C 「No」を選択した項目 工	【今後の方向】 ◆ 平成23年度に策定する高知県子ども読書活動推進計画(第二次)において明確な数値目標を設定し、その達成を目指した取組が必要である。 ◆ 県が主体的に取り組んできた「子ども司書」養成講座や読書フォーラムを市町村が主体的に取り組めるよう支援していくことが必要である。 ◆ 平成23年度で終了予定である子ども読書活動支援員の配置は、公立図書館のない町村等、読書環境の厳しい地域への継続配置について検討する。
	【総合評価】 子どもの読書活動を推進するために、読書環境の整備に総合的に取り組んできた。特に公立図書館がない13町村に配置した子ども読書活動支援員の取組は、子どもの読書活動が促進され、考える力や豊かなコミュニケーション能力をもたらす創造力などの基盤形成につながるため、市町村からの評価も高い。また、支援員の配置により県立図書館の図書利用冊数が大幅に増加するなど、市町村に大きな効果をもたらした。	